



令和5年9月26日
大津市津市立瀬田南幼稚園
園長 平木 秀樹

2学期が始まって1ヶ月が経とうとしています。残暑が厳しいとはいえ、朝夕は気温も下がり秋への移り変わりがようやく感じられるようになってきました。戸外で遊ぶときは相変わらず熱中症指数とにらめっこをしなければならない状態ですが、子ども達の体調には十分配慮しながらいろいろな経験を重ねていける2学期にしていきたいと思えます。

“自分でやってみよう！” “あきらめないで、やってみよう！！”

9月1日は、遊戯室で2学期の始業式を行いました。式では、2学期の生活で子ども達に頑張ってもらいたいこととお話しましたのでご紹介します。

① 自分でやってみよう！

これは特に3歳児さくら組の子ども達に向けてお話をしました。

幼稚園での生活を通して、さくら組の子ども達は、朝の準備や着替え、手洗い、トイレなど身の回りのことが自分でできるようになってきています。トイレなどは夏休みの間に自分でできるようになって、そのことが大きな自信になった子どももいたようです。

子ども達には、今まで先生に手伝ってもらっていたことも「自分でやってみよう！」ってがんばってみようねと伝え、たくさん子ども達がうなずいてくれていました。どの子も「自立しよう」という気持ちをもっています。「自分でしなさい」と言っても「できない」「やって～」ということがあられるかもしれませんが、さくら組の先生達は、その子の「してほしい気持ち」を受け止めつつ、「じゃあ、ここを持ってあげられるからやってみようか」「これならできると思うよ」と自分でやってみる一歩を踏み出せるような言葉がけをしています。ぜひ、ご家庭でも子ども達の「一歩」を支えてあげてくださいね。



② あきらめないで、やってみよう！！

これは、4歳児ばんだ組、5歳児そら組の子ども達に向けてお話ししました。

現代の子ども達は、「出来なかったらどうしよう」「出来なかったら恥ずかしい」という思いが強いためか、初めてのことにしり込みしてしまうことが多いように感じています。子ども達には「はじめてのことは上手くできないことが多いけれど、あきらめないで何回もやってみると少しずつできるようになっていくんだよ」「クラスの先生達もはじめはピアノが弾けなかったけど、毎日、やっているうちに上手に弾けるようになったんだよ」と伝えました。(ピアノに苦手意識のある先生は、苦笑いをしていましたが…)

もちろん子ども達にとって『できること』は嬉しいことですが、大人が『できる・できない』という価値観に縛られずに、「やってみたことがすごいと思うよ！」「きっと少しずつできるようになってくるよ」と子ども達の挑戦しているプロセスやその時々的心情を受け止め、認めていくことが大切だと思います。



2学期は、どの学年も“やってみよう！！”を合言葉に、子ども達のやる気を引き出していきたいと思えます。保護者の皆さんも子ども達への励ましと支えをよろしく願いいたします。

まずは、やりたいことを存分に

3歳児さくら組では、2学期当初は子ども達が生活にできるだけスムーズに入っていけるように、だれもが楽しめる遊びの場づくりを行ってきました。

1学期から楽しんでいたままごとはもちろんのこと、ほぼ部屋の半分を新聞遊びの場にして子ども達が開放的に遊べるようにしました。新聞紙をプールの水のように先生や友達と掛け合いっこしたり、新聞紙の山に潜ったり…新聞紙の感触を楽しむ中で友達とも触れ合い、幼稚園の楽しさを思い出してってくれたようです。

粘土遊びは、新たに土粘土を用意し、粘土の塊をちぎったり、足で踏んだり…これまでとは違う触れ方や遊び方を体験しています。

まだまだ、「友達と遊ぶ」というよりも「自分のしたいこと」をし、その中で友達と一緒にいる楽しさを感じていくのが、今の3歳児です。ぜひ、お家では「誰と遊んだの?」ではなく、「何をして遊んだの?」と聞き、自分でたくさん遊べたことを一緒に喜んであげてくださいね。おうちの方が嬉しそうに聞いてくれることで、改めて自分なりに遊んだ楽しさを実感してくれることと思います。



友達を新聞紙で埋めちゃおう!



土粘土って冷たくてきもちいい~

ファンタジーの世界を大切に



にんにんにんじゃから
お手紙が届いたよ!

9月4日、4歳児ぱんだ組の子ども達のもとに忍者から手紙が届きました。ほとんどの子ども達が目を輝かせて忍者からの手紙を見つめている一方で、「こわ~い」と言っている子どももいて、忍者という姿の見えない存在にちょっとドキドキしているようでした。しかし、これからの忍者とのやりとりを通して、怖がっていた子ども達にとっても忍者が親しみをもてる存在になっていくのではないかなと思っています。

幼稚園の子ども達は、まだまだファンタジーの世界で生きています。人は、成長するにしたがって現実的・論理的に物事を捉えるようになりませんが、幼児期にファンタジーの世界で想像やイメージを膨らませていく経験が、豊かな思考力や発想力を培うことにつながっていきます。

あまりに夢見がちな子どもには、現実を知らせようとしてしまいがちですが、幼児期にはファンタジーこそが大切なのだと考え、子どもと共に楽しんでいける大人でありたいものですね。

あきらめないで、やっているよ~!!

5歳児そら組では、あきらめないでやってみる素敵な姿がたくさん見られています。これをきっかけにどんどん自信が深まっていくといいですね! そら組さん、がんばれ~!!



ちょっぴり怖いけれど、立って
乗れるように挑戦!



片手でもぶら下がるよ!
ハイ、ポーズ!!



こつこつやっているうちに、走
り跳びまでできるように!



手を真っ赤にしながら、何度も
何度もやってみたよ~